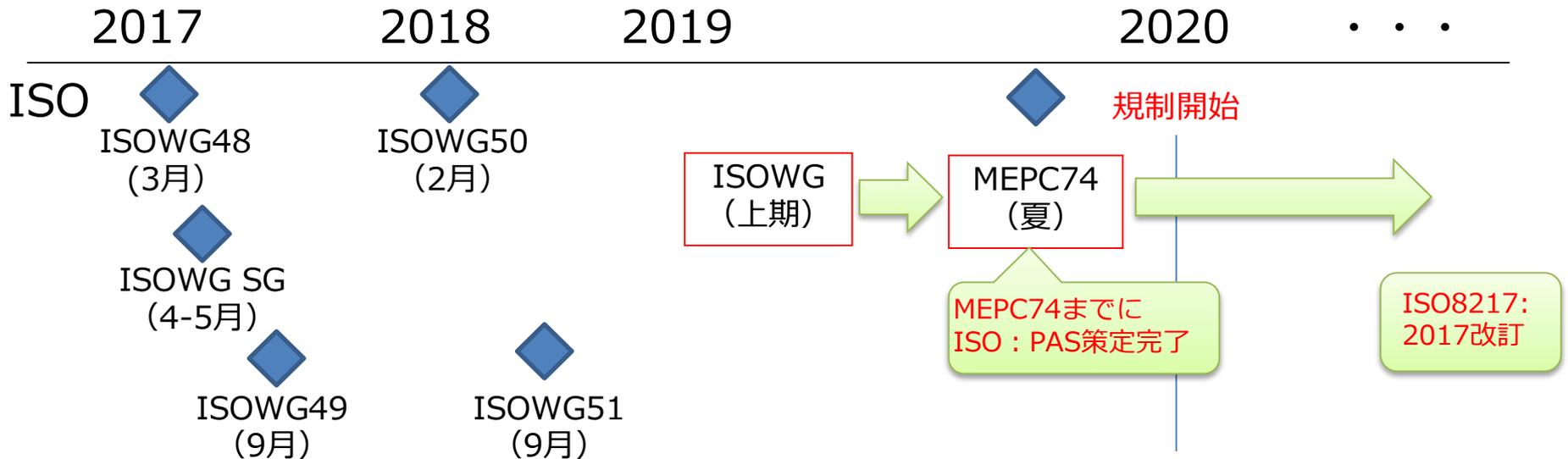


2020年のSOx規制への対応を踏まえた 国際的な品質規格の見直し

ISO WGスケジュール Publicly Available Standard (PAS) の場合



- MEPC71で、MEPC74までに規格策定完了することとし、会議後、ISOに要請が出された。
- 通常のISO規格は、WG内で意見一致してから、各国の標準化団体に問合せ12週間、承認8週間、合計20週間を必要となり2020年の規制開始の間に合わないため、12週間の投票期間を設けることで策定が完了するPASで当面は対応することとなる。

→2019年上期中にはISO WG内でのPAS策定のための意見一致が必要

2020年のSOx規制への対応を踏まえた 国際的な品質規格の見直し

1. MEPC74（2019年夏）までに公開仕様書(Publicly Available Standard)策定を決定。
※PAS：新しい技術など、緊急に標準化が必要となった技術に関して、ISO委員会内での国際的な合意を表す規格。PASの有効期間は3年間。
2020年以降に正規規格が策定された後、PASからISO規格に置き換わる想定。
2. PASと合わせて、CIMAC（国際燃焼機関会議）ガイドラインも策定。
→船舶側における燃料利用時の取扱いに関する指針。
3. ISO8217では、現状、動粘度、硫黄分、引火点、セタン指数（CCAI）、低温性能等十数種類の性状項目が規定されているが、PASは、既存の規格は変更せずに、単独安定性・混合安定性の規格・試験方法の改訂・選定のみを検討事項を絞る予定。
4. ISOWGでは、20種類に及ぶ、規格に関係する試験方法をリスト化し、其々の特徴、長所・短所を確認したが、どの試験方法が適当かは未だ不明確なことから、Energy Institute（EI：英国エネルギー協会）に試験方法策定を委託。EIは既存の試験方法のメリット・デメリット(精度・再現性・機器コスト)等を横並びで評価し、1-2種類の有望な試験方法をISOWGに提案する予定。
※EIの技術委員会のメンバーは、石油会社、独立分析試験会社等の専門家メンバー等で構成。